

〔様式 1〕

## 事務事業評価表

1～11までは、担当課による評価

記入年月日	平成15年3月7日			
平成15年度	事業コード	23130	電話	042-751-9142
担当部課名	消防本部	警防	課	救急対策 室
事務事業名	救急高度化推進事業			

## 1 総合計画における位置づけ

政策名	第3章	安全に暮らせる都市の実現をめざして	事業開始年度
基本施策名	第1節	災害に強いまちづくり	13年度
施策名	第3施策	消防力の強化	

## 2 実施根拠及び関連法令等

消防法第35条の5（救急業務）
-----------------

## 3 事務の区分

自治事務
------

## 4 経費の区分

その他の経費
--------

## 5 事務事業の分類

市単独事業
-------

## 6 受益者負担

なし
----

## 7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか	(2)対象(誰、何)
救急業務を取巻く社会的環境の変化に対応するため、高度救急医療資機材の整備を行い市民の救命効果の向上を図るもの。	市民
	対象数 620000
(3)平成14年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>救急外傷セットを緑ヶ丘分署消防隊に3セット配置した。（傷病者への早期応急手当を目的に配置）配置計画13-15年度予定</li> <li>救急隊員用耐刃防護衣を淵野辺分署に3着配置した。（安全確保のため配置）配置計画は13-15年度の予定。</li> <li>集団救急用消耗品（劣化・老化した薬品類）を購入し配布した。</li> </ul>	
(4)個別計画の概要	概要
計画名	相模原市消防力整備計画
計画年次	13年度～22年度
	救急体制の強化・充実 3 対応策 (2) 救急車両、資機材の高度化

## 8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

15,16年度は目標値

成果指標	指標名	指標式	指標設定の意図	指標の推移(年度)				
				12	13	14	15	16
	目標配置達成率	配置数÷計画数×100 H13年9セット H14年5セット H15年4セット	配置達成率から計画的な配置が実施できたかを表す		50	28	22	
	達成率	H13年9セット H14年1セット H15年1セット H16年4セット H17年3セット	状況により配置計画を改めた		50	6	6	22

## 9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
	決算	決算	決算	予算	予算(見込み)
事業費					
決算(予算)額	4,099	1,972	418	356	1,039
人員・時間数	1・24	3・48	3・48	3・48	3・48
人件費	97	200	200	200	200
その他経費					
合計	4,196	2,172	618	556	1,239
特定財源	0	0	0	0	0
対象数	590	600	610	620	620
対象の単位あたり経費	7.1	3.6	1.0	0.9	2.0

10 個別評価

(1)達成度 評価 B ▼	A:達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B:一部達成していない		・活動指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C:達成していない		・事業目標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	計画的な配置ができず、先延ばしによる計画変更によって配置している状況である。
(2)必要性 評価 A ▼	A:適応している	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっていない
	B:一部適応していない		<input checked="" type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C:適応していない		<input type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	<input type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見て、市が事業を行う必要がある 本事業は、傷病者の早期応急手当を実施し市民の救命率の向上を図るものであり、適応している。
(3)有効性 評価 A ▼	A:有効である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B:一部有効でない		<input type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C:有効ではない		
		説明	本事業は、一人でも多くの市民を救命する観点から有効である。
(4)効率性 評価 A ▼	A:優れている	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B:一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C:改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている
		説明	<input type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない より多くの消防車両等に搭載することにより、早期応急手当が実施でき、効率性に優れている。
(5)公平性 評価 A ▼	A:公平である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B:一部公平でない		<input type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C:公平でない		<input type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	全消防車両へ搭載することにより、市民へ広く均等な救急サービスが図れる。
成果向上の余地		事業費削減のために取り得る手段と削減額	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> ない	説明: 救急高度化の推進をすることで、市民の救命効果の向上が図れることが期待できる。	手段	今後全消防車への積載計画が計画されているため、コスト改善の余地については考えられない。
		削減額	千円

11 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較
		県内の一部都市(厚木市:15年2月)では、市の所有する公用車330台のほぼ全車に救急セットを搭載し、出先で市民負傷者に出くわした場合など、迅速に応急処置ができるよう備えている。
今後の進め方		
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	総合評価に関する説明 市民の救命効果を向上させるため、救急資機材の整備を行い救急高度化の推進を図ることは極めて重要であり、今後も継続的に進める方向である。
<input type="checkbox"/>	見直し	
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了・廃止済	

12 二次評価コメント

--